

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護概論	1	15	2	1	山本 めぐみ (実務経験:在宅での看護)
到達目標					
保健・医療・福祉における在宅看護の現状と課題について理解できる。 在宅看護の対象と役割、在宅看護活動について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 在宅看護の概念 1)在宅看護とは 2)在宅看護の場と対象のQOL		講義 DVD	DVD 「いのちと生活を看護する訪問看護サービス」 DVD 「在宅療養とQOLの維持と向上のために」 【事前学習】 ・施設看護と在宅看護の相違点をまとめる。	
2	2. 在宅看護における看護師の役割と機能 1)高齢化社会の進展と地域包括ケアシステム 2)医療ニーズに応じた継続的な医療の提供 3)在宅看護における看護師の倫理 3. 在宅看護の対象の理解 1)対象者の特徴 (1)年齢 (2)疾患 (3)障害		講義		
3	3. 在宅看護の対象の理解 2)家族		講義		
4	4. 在宅看護の変遷と社会背景 1)訪問看護制度の創設と発展 2)介護保険制度 3)訪問看護制度 4)在宅看護の課題と展望		講義		
5	5. 在宅看護におけるチームケアと多職種連携		講義 DVD		
6	6. 訪問看護の理念 7. 施設看護と在宅看護の違い		講義		
7	7. 施設看護と在宅看護の違い		グループワーク		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院			

統合分野:「在宅看護論」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護方法論	1	30	2	1.2	山本 めぐみ 大堂 千穂 滝川 良子 (実務経験:在宅での看護)
到達目標					
在宅看護の実際を知り、在宅で療養する対象とその家族に対し、特性をふまえた看護が理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 在宅看護の実際 1)在宅看護の特徴		講義	担当:山本 めぐみ 45分	
2	2. 地域包括ケアシステムとは		講義	【事前学習】 地域包括ケアシステムについて調べる。	
3	3. 在宅看護過程の展開のポイント		講義		
4	4. 在宅看護過程 1)在宅看護目標		講義		
5	2)在宅看護計画・実施・評価		講義		
6	5. 地域における多職種連携 1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携		講義	【事前学習】 暮らしを支える医療・介護・福祉職種とその役割について調べる。	
7	3)地域の社会資源との連携 4)ネットワークづくり				
8	6. 療養上のリスクマネジメント 1)在宅看護におけるリスクとは 2)環境整備による安全の確保 3)身体損傷の防止 4)薬物による事故の防止 5)感染の防止 6)災害に対する準備と対応		講義	【事後学習】 生活に潜む危険について考える。	
9	7. 在宅医療と社会保障制度 1)訪問看護の費用、診療報酬と介護報酬 2)訪問看護師の医療行為		講義	担当:大堂 千穂	
10				【事前学習】 社会福祉Ⅰの介護保険制度について学習する。	
11	8. 在宅で療養する対象への看護の実際 1)小児 2)難病 3)認知症 4)終末期(がん) 5)精神疾患		講義	担当:滝川 良子	
12					
13					
14	9. 在宅で療養する対象への看護の実際 1)体位変換 2)車椅子移乗		演習	【事前学習】 生活援助技術Ⅲの移動技術について学習する。	
15	10. 介護サービスについて		グループワーク		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護技術	1	30	2	2	教員 院内講師
到達目標					
在宅で療養する対象への看護技術について理解ができる。 在宅で療養する対象および家族への生活および技術指導が理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 在宅で求められる看護技術 1)アセスメント 2)コミュニケーション 3)活動の制限のアセスメントと生活行為 2. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 移動・移乗	講義	担当:教員		
2	3. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 呼吸 4. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)NPPV 2)在宅酸素療法(HOT) 3)在宅人工呼吸療法(HMV)と吸引	講義	【事前学習】 病態学Ⅱの呼吸不全について学習する。		
3	5. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)NPPV 2)在宅酸素療法(HOT)	演習	45分		
4					
5	6. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 食生活・嚥下 7. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)経管栄養 2)在宅中心静脈栄養(HPN)	講義	【事前学習】 生活援助技術Ⅰ(食生活)の 摂食・嚥下のメカニズムについて学習する。		
6	8. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 経管栄養	演習			
7	9. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 排泄 10. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 膀胱留置カテーテル	講義	【事前学習】 臨床看護技術Ⅰ排泄障害の 排尿障害について学習する。		
8	11. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 身体の清潔	講義			
9	12. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 創傷処置 1)褥瘡の基礎知識 2)創傷処置とは 3)創傷処置を受けている対象の援助方法 ・創傷ドレッシング法の目的・種類 ・創傷処置:包帯法 ・創傷部位の観察	講義	担当:院内講師		
10	13. 褥瘡のアセスメントとケア、予防 1)スキンケア 2)おむつの選択・装着	講義	【事前学習】 老年保健の高齢者の皮膚の 特徴について学習する。		
11	14. 褥瘡のアセスメントとケア、予防 1)ポジショニング 2)体位変換 3)体圧分散・除圧	演習			
12	15. 人工肛門造設術後の生活指導 1)ストーマとは 2)装具について 3)生活の工夫	講義			
13	16. リハビリテーションの概念 1)障害の概念とリハビリテーションの意味 2)リハビリテーション医療におけるチームアプローチ 3)障害のある人をアセスメントするための基本的な 評価ツール 4)生活行動の再構築に向けた支援	講義	担当:院内講師		
14	17. 在宅リハビリテーション 18. 呼吸器疾患患者のアセスメントと呼吸理学療法 1)スクイーミング 2)排痰法	講義 演習	【事前学習】 病態学Ⅱの呼吸不全について学習する。		
15					
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	統合分野 在宅看護論 別巻 リハビリテーション看護 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 基礎分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 基礎分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器			医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護論演習	1	30	2	2	山本 めぐみ (実務経験:在宅での看護) 教員
到達目標					
在宅で療養する対象と家族の特性をふまえた看護を考えることができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 訪問時のマナー 2. 在宅看護介入時期別の特徴 1)在宅療養準備期(退院前) 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末期(看取り期)		講義	担当:教員	
2	3. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象(在宅療養導入期)		グループワーク	【事前学習】 成人臨床看護Ⅲ脳梗塞患者の看護について学習する。	
3			発表		
4	4. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象 (誤嚥性肺炎を生じた超高齢者(急性期))		演習	45分 ・scenarioを用いた臨床推論演習を行う。	
5					
6	5. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象(高次脳機能障害のある療養者)		グループワーク		
7			発表		
8	6. 在宅療養継続のための家族支援		講義		
9	7. 在宅で療養する難病の対象への看護 8. 在宅で療養するがん末期の対象への看護		講義	担当:山本 めぐみ	
10	9. 在宅で療養する医療処置を必要とする対象への援助 筋萎縮性側索硬化症(ALS)で人工呼吸療法を実施する対象 (在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者)		グループワーク	【事前学習】 老年臨床看護の筋萎縮性側索硬化症の病態・治療について学習する。	
11					
12			発表		
13	10. 在宅で療養する終末期(がん)の対象への援助 (最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者)		グループワーク	【事前学習】 成人臨床看護Ⅴの終末期がん患者の看護について学習する。	
14					
15	11. 在宅で療養する医療処置を必要とする対象への援助と在宅で療養する終末期(がん)の対象への援助のまとめ		講義 DVD	DVD 「家で親を看取るその時あなたは」	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護管理	1	15	3	1.2	看護部長
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解できる。 マネジメントに必要な知識・技術について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 看護とマネジメント		講義	【事前学習】 ・チーム医療を支える職種とその役割について調べる。 【事前学習】 ・看護ケア提供システムについて調べる。 ・看護学概論の看護体制について学習する。	
2	2. 看護ケアのマネジメント 1)チーム医療とは (1)チーム医療の必要性 (2)組織目的達成のマネジメント 2)チーム医療の中での職種間の連携・調整 (1)医師との協働 (2)多職種との協働 (3)チームにおける看護師の役割と責任 (4)チームカンファレンス		講義		
3	3. 看護職のキャリアマネジメント 1)看護職の健康管理 2)キャリア開発		講義		
4	4. 看護サービスのマネジメント 1)看護単位と看護ケア提供システム (1)チームナーシング (2)プライマリナーシング (3)機能別看護方式 (4)モジュラー・ナーシング 2)看護チームでの情報伝達・共有 (1)情報伝達・共有の方法 (2)ミーティング (3)交替制勤務と情報伝達		講義		
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1)リーダーシップとマネジメント : 倫理的問題		グループワーク		
6	5. マネジメントに必要な知識と技術 2)リーダーシップとマネジメント (1)特性理論、行動理論、条件適合理論		講義		
7	6. 看護ケア提供システム看護管理のまとめ		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト	統合分野 専門分野 I	看護の統合と実践 基礎看護学	看護管理 看護学概論	医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
災害看護と国際協力	1	15	2	1.2	教員
到達目標					
災害の基本的知識と災害時の看護師の役割について理解する。 我が国における災害対策、災害救助活動を理解し、国際協力の必要性を考えることができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 諸外国への国際協力 1)国際協力とは 2)世界の健康問題の現状 3)国際協力のしくみ (1)国際機関 (2)政府機関 (3)非政府機関 4)国際救援と看護		講義	【事前学習】 ・近年行われている国際救護活動について調べる。	
2	2. 国際救援活動の実際 : 地球のステージ鑑賞		鑑賞		
3	3. 災害医療の基礎知識 1)災害とは 2)災害医療の特徴 3)災害に対する社会的対応システム (1)CSCATTT (2)トリアージ (3)DMAT 4)災害が人々の健康生活に及ぼす影響 4. 災害看護の基礎知識 1)災害看護の定義 2)災害看護の役割 3)災害看護の対象		講義	【事前学習】 ・DMATの活動について調べる。	
4	5. 災害時の看護活動 1)災害時の支援、優先度の高い人のニーズとそのケア 2)初動期の医療援護活動 3)被災病院での医療看護活動 4)災害後の慢性期的な健康問題とその対応		講義	【事後学習】 ・事例をもとにこころのケアについて考える。	
5	6. 被災者と救援者の心理とこころのケア 7. 災害準備期の活動 1)災害への備え 2)災害と看護ネットワーク		講義		
6	8. 地域における災害の特徴、災害対策の実際 消防署見学		見学	【事前学習】 ・地域における消防署の役割について調べる。	
7	9. 災害時の医療援護活動の実際		演習	45分	
8	終講試験				
評価方法		筆記試験・レポート(100点, レポート配点については講師より説明)			
テキスト		統合分野 看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
医療安全	1	30	3	1.2	教員 (実務経験:病院での看護) 院内講師(看護師)		
到達目標							
安全な医療を提供するためのシステムが理解できる。 対象の安全を阻害する危険因子を判断し、事故を予防するための回避行動、安全を保証する確かな知識・技術が習得できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 医療安全の概念 1)医療安全とは 2)医療安全の動向、取り組み 3)ヒューマンエラー 2. 医療安全対策の国内外の潮流 1)国・組織としての安全対策	講義	担当:院内講師				
2	3. 医療事故の構造 4. 医療事故防止の考え方 5. 看護業務にかかる看護師の法的責任・倫理	講義	【事前学習】 ・近年発生している医療事故について調べる。 ・看護師の法的責任について調べる。				
3	6. 医療におけるリスクマネジメント 1)リスクマネジメントの基本と方針	講義					
4	7. 臨床で起こっている事故の実際と対策、実例 1)診療の補助の事故 2)療養上の世話の事故	講義					
5							
6	8. 医療のリスクマネジメントのプロセスとその実践 1)リスクマネジメントのプロセス 2)リスクの分析(RCA分析) 3)リスクへの対応	講義					
7	9. 医療のリスクマネジメントのプロセスとその実践 1)RCA分析	グループワーク					
8	1)RCA分析	発表		45分			
9	10. 看護学生の実習と安全 1)実習中に起こりやすいインシデント 2)実習中の事故発生時の対応 3)実習における事故の法的責任	講義 グループワーク		担当:教員			
10	11. 看護技術のリスクと安全	グループワーク		【事前学習】 ・診療の補助技術、療養上の世話で生じる事故について調べる。また事故の原因についてまとめる。 ・看護師の法的責任について調べる。			
11	12. 起こりやすい医療事故とその対応 1)コミュニケーション	講義 グループワーク					
12	13. 起こりやすい医療事故とその対応 1)診療の補助技術	講義 グループワーク					
13	14. 起こりやすい医療事故とその対応 1)療養上の世話	講義 グループワーク					
14	15. 危険予知トレーニング(KYT)	講義 グループワーク					
15	16. 危険予知トレーニング(KYT)	グループワーク					
16	終講試験			45分			
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医療安全ワークブック		統合分野 看護の統合と実践 看護管理	医学書院 医学書院 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
臨床看護の実践	1	30	3	1.2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
実践に求められる情報収集能力、状況判断能力、対象の意思を尊重する姿勢、多重課題への対応を 考え状況に応じた援助ができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 対象の状況判断および援助の選択と実施 1)点滴静脈内注射を実施している患者の 点滴漏れの判断と対応 (1)輸液ポンプ、シリンジポンプの構造と機能 (2)基本的な操作方法と取り扱い (3)使用時の注意点・事故防止	講義 演習	担当:教員 【事前学習】 ・輸液ポンプ、シリンジポン プのしくみと基本的取り扱 いについて調べる。		
2	(4)点滴漏れの観察と判断の視点、対応 (5)事例検討 安全に輸液療法を実施するための事故防止	講義 演習			
3	2. 対象の状況判断および援助の選択と実施 1)腹部膨満感を訴える患者の症状の判断と援助 (1)事例から学ぶ臨床判断の考え方 ・腹部膨満の分類・原因・誘因 ・メカニズムと特徴 ・検査データの読み取り ・アセスメントと診断 (2)アセスメントに基づく援助の選択の考え方	講義 グループ ワーク 演習	・scenarioを用いた臨床推 論演習を行う。 ・事例の状態をアセスメント し、必要な援助を判断す る。 ・基本看護技術を練習し演 習に臨む。		
4					
5					
6					
7	3. 緊急度、重症度から判断する優先順位の考え方	講義	担当:教員 45分		
8	4. 多重課題への対応:複数患者への看護実践 1)優先順位を判断するには (1)優先順位を考えるための情報収集 (2)アセスメント (3)複数患者に必要な観察・援助 2)多重課題への対応 (1)優先順位を考慮したスケジュールの立案 (2)複数患者の看護実践 3)実践後の振り返り	講義 演習	・臨床現場に近い形での 演習を行う。		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	統合分野 看護の統合と実践 医療安全 医学書院 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研				

【統合分野】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
在宅看護論実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
地域で生活しながら療養している対象とその家族を理解し、個々の生活に応じた援助ができる					
授 業 内 容					
<p>【外来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活しながら外来通院している対象を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の通院目的が理解できる。 2) 対象の疾病や障害が生活に及ぼす影響が理解できる。 3) 対象の心理が理解できる。 2. 地域で生活しながら外来通院している対象に行われている看護が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全に診察・検査を受けるための援助が理解できる。 2) 在宅での生活を継続するための援助が理解できる。 3) 看護の継続性について理解できる。 3. 他職種と連携することの重要性および看護の役割について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 他職種との連携の実際を知る。 2) 他職種との連携の中での看護の役割について理解できる。 <p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の療養生活について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の日常生活が理解できる。 2) 対象と家族の在宅療養に対する心理を理解することができる。 3) 対象の在宅療養を支える家族について理解できる。 4) 対象が活用している社会資源について理解できる。 2. 在宅療養している対象および家族の状況に応じた看護が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の訪問看護の目的が理解できる。 2) 対象および家族の状況・家庭の状況に応じた援助の工夫が理解できる。 3) 対象および家族に対する支援的な関わりが理解できる。 4) 対象の生活の場に訪問するための望ましい態度・行動をとることができる。 3. 訪問看護における他職種との連携を通して、訪問看護の機能・役割について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護師の役割が理解できる。 2) 他職種との連携の実際が理解できる。 					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【統合分野】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
統合実習	2	90	3年次	後期	各実習担当者
到 達 目 標					
看護チームの一員としての体験、夜間実習、看護管理の実際を通し、各看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護を実践する					
授 業 内 容					
<p>1. 複数患者の状況に合わせ、必要な援助が実施できる</p> <p>1) 複数患者の状態を総合的に把握することができる</p> <p>2) 複数患者に必要な援助を優先順位、時間配分を考慮し実施できる</p> <p>2. 看護チームの一員としての役割を理解し、看護の実際が理解できる</p> <p>1) メンバー間で行われている協力体制・調整の実際が理解できる</p> <p>2) チーム内で行われている協力体制・調整の実際が理解できる</p> <p>3) 医療チームの中で看護師の果たす役割について考えることができる</p> <p>3. 各看護単位における看護管理の実際が理解できる</p> <p>1) 病院組織における看護管理の実際が理解できる</p> <p>2) 看護師長の役割と病棟管理の実際が理解できる</p> <p>4. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際が理解できる</p> <p>1) 夜間帯を通し、対象の状態や反応が理解できる</p> <p>2) 夜間帯における看護の実際が理解できる</p> <p>3) 夜間帯における患者管理体制の実際が理解できる</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					